

平成 28 年度 第 2 回広報・広聴委員会会議報告

日 時 平成 28 年 8 月 5 日 (金) 13:30～17:00
場 所 追手門学院大阪梅田サテライト ゼミ室
出席者 相京、川上、坂口、高木、深井
藤吉、柳沢 (事務局)
(欠席) 辻岡委員長

○協議・報告

(1) 協 議

a 三重大会の概要について

・大会・研修委員会から提供された大会企画とスケジュールを確認。

b 会報第 100 号の進捗状況について

- ・当初、100 号記念の特集として 4 ページを増ページすることを考えたが、執筆者の調整が困難だったため、100 号を懐古する記事 2 本を入れたうえで、通常どおり 12 ページの構成とする。
- ・6 月 12 日に深井委員が、九州史学研究会特設部会「熊本地震と被災資料の後方支援」に出席し、熊本地震直後の各機関の緊急的な資料保全の動向について情報交換を行っており、その概要を速報的にまとめた記事を掲載する。
- ・公文書機能普及セミナー (熊本) の報告 (調査・研究委員会) については、すでに原稿依頼済み。全体として 8 月末日原稿締切り、9 月末日刊行予定。

c 会誌『記録と史料』第 27 号の構成について

○特集テーマ「災害経験にまなぶ―常総と熊本から― (仮)」

特集テーマとしては、昨年からの常総の水害と今春の熊本地震における被災資料レスキューを取りあげる。

- ・常総市の公文書水損については、(1)被災資料レスキュー活動を支える行政側のマネージメントのあり方、(2)修復技術や手順の研修とその改善、東日本大震災による水損との比較、(3)資料レスキューのボランティアとしての学んだこと・引き継ぐべきこと等の視点から 3 本の報告 (執筆者調整中)。
- ・熊本地震については、速報的なまとめにならざるをえないが、「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム」あるいは「熊本史料ネット」の動きと、調査・研究委員会の公文書被災状況調査概要を報告する方向で調整中。

○研 究

- ・現在のところ、投稿の申し出はない。国立公文書館等の長期研修の修了論文執筆者のなかで、機関会員を中心に投稿の可能性がないかどうか、可能な範囲で確認してみる。

○世界の窓

- ・9 月に韓国で開催される第 18 回 ICA ソウル大会の参加記を副会長に内諾済。
- ・ICA ソウル大会については、別な視点からビジネスアーカイブズ等の個人会員に参加記を投稿してもらえないか調整する。

○ネットワーク

- ・最近開設された山形県公文書センター、印西市木下交流の杜歴史資料センターについて概要を報告してもらおう。また本年 6 月に可決された藤沢市の公文書管理条例についても同様（執筆者要調整）。

また、近年、大学アーカイブズはじめ自治体以外のアーカイブズの設立が活発になっており、こうした傾向は組織アーカイブズのみならず、薬害や公害、市民運動など多様なくくりでも散見される。今回は必ずしもすべてが公立による運営ばかりではない資料館のネットワーク「公害資料館ネットワーク」の活動を紹介してもらおう。

○書評と紹介

- ・13 冊の候補のなかから、目次等の内容を検討し、6 冊について掲載を決めた。これ以外の 2 冊について、掲載の方向で執筆者調整を進めることにした(各委員で分担)。

○資料ファイル

- ・熊本地震後に全史料協会会長名で内閣総理大臣あてに提出した「東日本大震災被災地における公文書等の保全・保存に関する要望活動について」を掲載。

また国立公文書館が検討を進めている「日本におけるアーキビストの職務基準」の改訂版が公表されれば、これも掲載する方向で調整。

○その他

- ・機関会員の刊行物情報については、前号同様にメール記載のある機関会員には、入力用の Excel ファイルを添付してメールで依頼し、ホームページでも情報提供を呼びかける。入力用の Excel ファイルは、去年の経験をふまえ、編集しやすいよう修正したものを配付する。

◎各委員に分担する原稿依頼・調整の結果を、委員会メーリングリストを活用して共有し、編集をすすめていく。

(2) 報告等

a 平成 28 年度第 1 回役員会について

- ・まもなく web 公開される会議報告を配付。

b 『記録と史料』等刊行物の pdf 作業の進捗状況・その他について

- ・643 タイトルをホームページに掲載済（全体の約 29%、7 月 27 日現在）
- ・会報第 100 号の進捗状況と依頼を掲載し、あわせて三重大会でも回答書未提出の執筆者に対して呼びかける。
- ・第 1 回役員会で言及されたホームページの東日本大震災関連の見舞文と画像（トップページ左側）の更新について議論した。東日本大震災の被災の大きさは際立っており、時間の経過を考慮した表現に修正する方向で広報・広聴委員会で原案を作成し、会長事務局に図って検討する。画像も現状のものから被災公文書のレスキュー活動等の画像に変更する。
- ・『記録と史料』第 26 号について、正誤表を発行する。

○次回開催場所と日時 全国大会開催時の 11 月 11 日の昼食・休憩を利用して開催
(会場等は、別途連絡)